

第12回グローバルヤングアカデミー 学会兼総会



【報告書】

2022. 7. 1

＜主催＞

Global Young Academy
日本学術会議若手アカデミー



GLOBAL
YOUNG
ACADEMY



1. 開催概要

1. 会議の名称

和文：第12回グローバルヤングアカデミー総会兼学会

英文：第12回Global Young Academy Annual General Meeting and Conference

2. テーマ

Harmonizing Reason with Sensibility:

Regenerating science for an inclusive and sustainable future

感性と理性のリバランス：包括性と持続性に向けた科学の再生

3. 主催団体

グローバルヤングアカデミー（Global Young Academy）、日本学術会議若手アカデミー

4. 組織委員長

新福 洋子（広島大学 教授）

5. 共催・協賛・後援

共催：九州大学、公益財団法人 日本学術協力財団 原田弘二基金

協賛：日本政府観光局

後援：外務省、文部科学省、独立行政法人 国際協力機構（JICA）、公益社団法人

日本看護科学学会、一般社団法人 日本生態学会、公益社団法人 日本化学会、

公益社団法人 高分子学会、筑波会議委員会、日本科学振興協会(JAAS)、

一般社団法人 日本DNA多型学会、公益社団法人 日本心理学会、日本ベントス学会

※本会議は、一部、JST「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」の支援を受けて実施いたしました。

6. 会期

2022年6月12日（日）～17日（金）【6日間】

7. 会場 ＊ハイブリッド開催（一部オンライン開催のみ）

九州大学伊都キャンパス（椎木講堂）

〒819-0395 福岡市西区元岡744

福岡市科学館

〒810-0044福岡県福岡市中央区六本松4丁目2-1

8. 参加者数

のべ 791名

9. 事務局

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34 日本学術会議内

日本学術会議若手アカデミー GYA 総会国内組織分科会

10. 運営事務局

〒819-0014 福岡市西区豊浜 2-21-8

合同会社オフィスビーワン

Email: gya2022-support@officebeone.com

2. プログラム

1. プログラム

日時	プログラム	会場
6月12日(日) 13:30-17:00	市民公開講座 「創造する未来と科学の可能性—さまざまな科学のつなぎ方を創造しよう—」	福岡市科学館 サイエンスホール
6月13日(月) 17:00-20:00	科学的助言ワークショップ 「政策策定における科学的助言」	オンラインのみ
6月14日(火) 17:00-19:00 19:00-19:30	開会式 GYA のご紹介	椎木講堂コンサート ホール (ハイブリッド)
6月15日(水) 17:00-18:30	パネルディスカッション 「シチズンサイエンスを促進する社会システムの構築を目指して」	オンラインのみ
19:00-20:30	プレナリーセッション 1 「社会の中の大学：持続的で包括性のある社会を実現するための公共プラットフォームとしてのあり方」	
6月16日(木) 17:00-18:30	ワークショップ 「自らの感性を引き出し、クリエイティビティを体感する」	オンラインのみ
19:00-20:30	プレナリーセッション 2 「科学者の社会への貢献に向け、感性と理性の調和を再考する」	
6月17日(金) 17:00-18:30	閉会式	オンラインのみ

2. 各プログラムの参加者数

日付	プログラム セッション名	参加者数（名）	
		オンライン	会場
6月12日(日)	市民公開講座		51
6月13日(月)	科学的助言ワークショップ	62	
6月14日(火)	開会式	152	15
6月15日(水)	パネルディスカッション	108	
6月15日(水)	プレナリーセッション 1	91	
6月16日(木)	ワークショップ	41	
6月16日(木)	プレナリーセッション 2	84	
6月17日(金)	閉会式	65	

3. アートプロジェクト

「植物の一年時計」

「共存・共生への祈り」

「0=1 -Discontinuous Continuity」

3. 各プログラムの詳細

1. 市民公開講座「創造する未来と科学の可能性 –さまざまな科学のつなぎ方を創造しよう–」

日時：6月12日(日) 13:30-17:00

会場：福岡市科学館 6F サイエンスホール

内容：高校生を対象に、点数取得型の勉強とは異なる目線の必要性を感じてもらい、単一の専門性だけでなくリベラルアーツも含め、多角的な視点を持つことの意識を芽生えさせ、学びの楽しさを伝えるワークショップを行った。

<開催の様子>



2. 科学的助言ワークショップ「政策策定における科学的助言」

日時：6月13日(月) 17:00-20:00

会場：オンライン

内容：科学的助言は、世界規模のパンデミックの経験により、よりその複雑性が顕著になっている。本ワークショップでは、科学アドバイザーとしての経験や、科学的助言に深い知見を持つメンターと共に、参加者が科学的助言の困難やリスク、また可能性や未来の方向性について議論した。

動画出演：Rémi Quirion

メンター：Yuval Vurgan、有本 建男、狩野 光伸、Binyam Sisay Mendisu、Markus J. Prutsch、黒田 玲子、

モデレーター：新福 洋子、Alma Cristal HM

閉会挨拶：河野 俊行

<開催の様子>



3. 各プログラムの詳細

3. 開会式・GYA のご紹介

日時：6月14日(火) 17:00-19:00

会場：椎木講堂コンサートホール（ハイブリッド）

内容：主催者・共催者からのご挨拶、内閣総理大臣からのメッセージ披露

アートイベント（歌と映像のパフォーマンス、アート作品紹介）

GYA の紹介

<開催の様子>



3. 各プログラムの詳細

4. パネルディスカッション「シチズンサイエンスを促進する社会システムの構築を目指して」

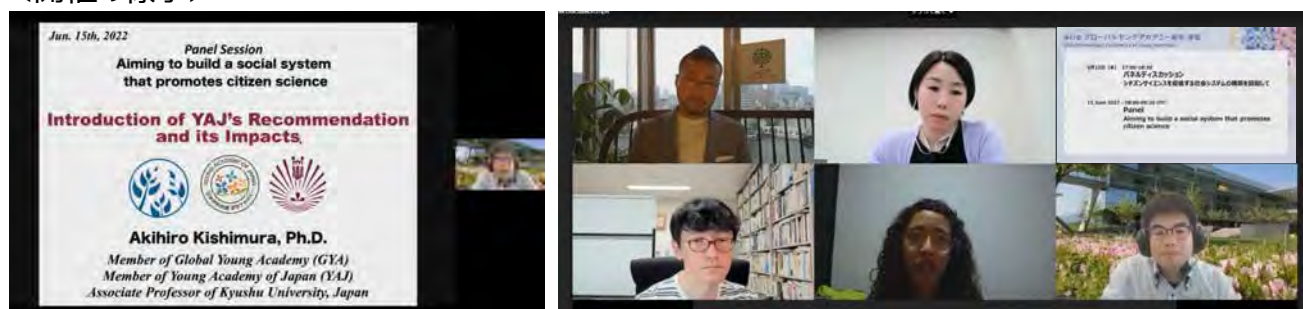
日時：6月15日(水) 17:00-18:30

会場：オンライン

内容：シチズンサイエンスは一般の市民によって行われる科学的活動であり、世界的に拡大しつつある。しかし、わが国では、研究者が国民や政策形成者等と共に研究計画を策定し、研究実施や成果普及を進めるような方法論の創出と環境整備を促進する社会システムの構築は途上である。若手アカデミーでは、海外と比較したシチズンサイエンスの国内の現況を把握し、その実践にあたり解決すべき課題を提言としてまとめるに至った。本プログラムでは、若手アカデミーが2020年に発出した提言やそれを受けての日本国内の動向について紹介するとともに、提言を受けて福岡大学に設立された「シチズンサイエンス研究センター」のユニークな取り組みを紹介した。さらに海外で行われている事例として、特にSDGsの達成に向けてのシチズンサイエンスの意義や課題について話題提供してもらった。これらを通じ、様々な場面で科学が社会をサポートできる装置としてのシチズンサイエンスについて深掘りするとともに、その促進に向けた社会システムの構築について議論を行った。

登壇者：岸村 顕広、Lisette Lorenz、大上 麻海、中村 征樹、乗竹 亮治

<開催の様子>



5. プレナリーセッション 1「社会の中の大学：持続的で包括性のある社会を実現するための公共プラットフォームとしてのあり方」

日時：6月15日(水) 19:00-20:30

会場：オンライン

内容：日々進化する学術を社会に強く結びつける公共の場は、大学においてほかにない。本プレナリーセッションでは、「理性」と「感性」のリバランスを常にアップデートしながら考え、市民とつながる場としての大学のあり方について考えた。特に、対話を通じて学術と社会のつながりを強めることをテーマに日本学術会議会長を務められた山極壽一氏、対話を通じた教育や芸術・文化と地域を結びつける大学の学長をする平田オリザ氏にご講演いただくとともに、地域環境の持続性・地域への包摂性に配慮して設計された九大伊都キャンパスの事例の話題提供を通じ、SDGs、ポスト SDGs 時代に求められる学術のあり方、大学の役割について議論した。

登壇者：山極 寿一、平田 オリザ、坂井 猛、Connie Nshemereirwe、Michael Saliba
モデレーター：Anindita Bhadra

<開催の様子>



3. 各プログラムの詳細

6. ワークショップ「自らの感性を引き出し、クリエイティビティを体感する」

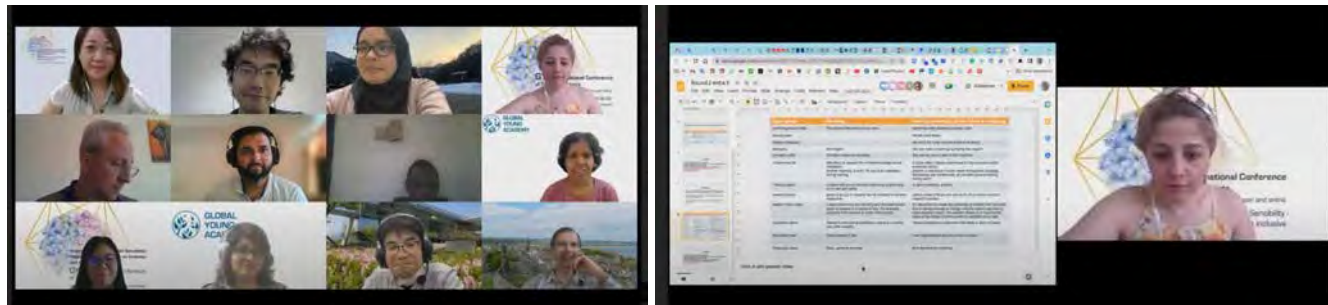
日時：6月16日(木) 17:00-18:30

会場：オンライン

内容：研究者にとって必要な創造性をアップデートするため、SFプロトタイピングの手法を用いて、参加者に潜在する感性を引き出し、小グループの交流でクリエイティビティを体感した。結果、全体のテーマである「感性と理性のリバランス」の意味合いについて、直感的に理解することを目的とした。この後のプレナリーセッション2で「感性と理性のリバランス」を分析的、論理的に議論するため、その前に感性を呼び覚ましておくことを二次的な目的とした。

モデレーター：宮本 道人、新福 洋子

<開催の様子>



7. プレナリーセッション 2「科学者の社会への貢献に向け、感性と理性の調和を再考する」

日時：6月16日(木) 19:00-20:30

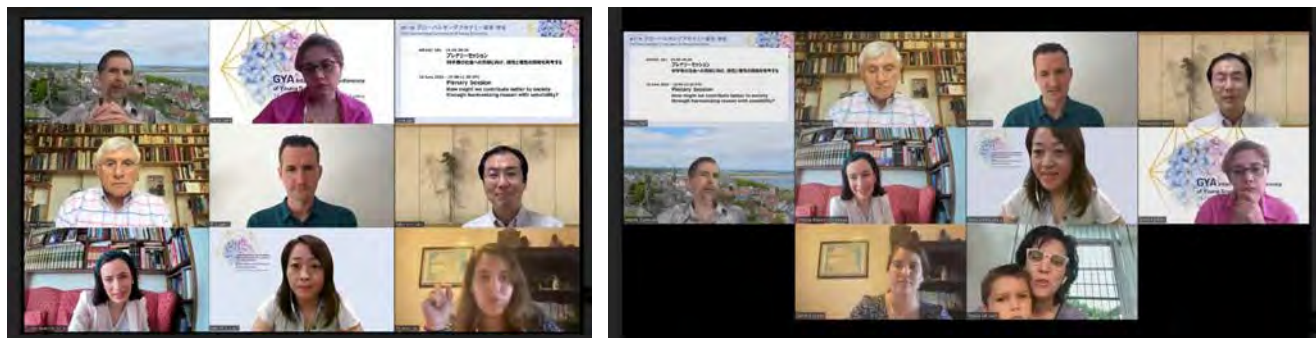
会場：オンライン

内容：科学者は社会にどう認知されているのか？国によって、分野によってどのように異なるのか？どのように科学者はより社会に貢献できるのか？これらの問いに対し、本プレナリーセッションでは、GYAメンバーとアルumnaiに対する調査の一次分析結果を示した。それを元に、分野の異なる登壇者の話題提供を踏まえ、会場からのコメントと質問を受けながら、議論を展開した。GYAのFocus Areaとして重ねてきた議論を、幅広い参加者に周知すると共に、一緒に考える時間となった。

登壇者：Dennis Sherwood、Sandra Lopez、Cristina Blanco Sío-López、狩野 光伸、Rob Jenkins、

モデレーター：新福 洋子

<開催の様子>



3. 各プログラムの詳細

8. 閉会式

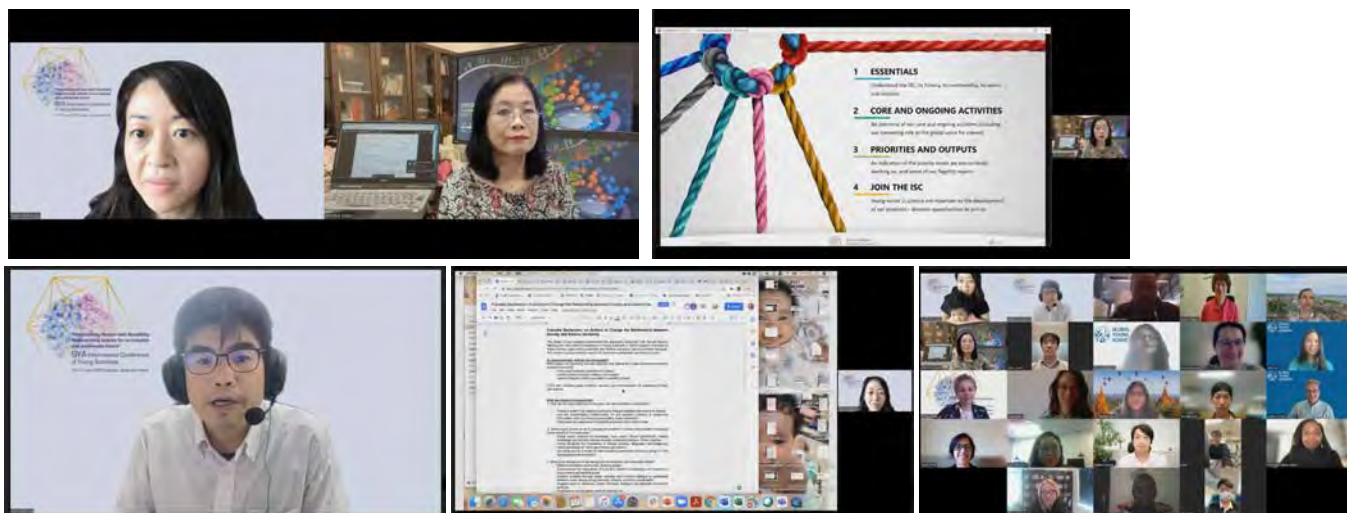
日時：6月17日(金) 17:00-18:30

会場：オンライン

内容：ダイジェスト映像配信、国際学術会議の紹介、各セッションからの報告、宣言案の公表、意見交換、まとめ

登壇者：小谷 元子（国際学術会議 (ISC)次期会長）、新福 洋子、岸村 顕広

<開催の様子>



～ダイジェストムービー（2分）～

会期中のスナップ写真や映像からダイジェストムービーを制作。



4. アートプロジェクト

今回の大会テーマ「感性と理性のリバランス」の実践の一つとして、アートとサイエンスのコラボレーションに取り組んだ。

将来世代へのメッセージを今後永きに渡って残る形にした作品、一瞬の輝きを芸術表現に昇華させた作品、大会テーマに寄り添い「共存・共生への祈り」を含めた楽曲・映像作品をアーティストの方々に制作いただいた。以下にその内容とアーティストについて紹介する。

なお、本アートプロジェクトは、GYA のワーキンググループ Science + Art = Peace and Justice を主体として進めた。

(1) 植物の一年時計

作品説明：植物が1年にわたり順に開花するようデザインされたアートガーデン。GYA総会開催にあわせて、九州大学（伊都キャンパスビックオレンジ前）に制作した。九州北部豪雨災害(2017年)の復興支援として「黒川復興ガーデン」を制作したことから発想を得た。このアートガーデンは、九州大学にある「生物多様性保全ゾーン」に自生する在来種を中心に植栽されている。また、方角を明記し、日の出入り、北極星の位置など、星々と自分のつながりを感じるように設計されている。このガーデンは、修験道の曼荼羅のオマージュであり、大いなる関係性の中で私たちが生かされていることを表現している。人々の心の中に、自然の循環や時間への想像力を喚起し、現在の植生を将来世代に伝えるものである。

作品制作：知足 美加子（九州大学大学院芸術工学研究院 教授）

植物監修：矢原 徹一（九州オープンユニバーシティ 理事）

造園：宗像緑地建設株式会社

動画制作：九州大学知足研究室（渡邊 慧大、濱田 輝、
内藤 真星、依田 拓海、於保 杏咲、伊藤 連胆）

協力：英彦山神宮、曹洞宗万歳山 龍国寺



知足 美加子
九州大学大学院芸術工学研究院
教授

<作品>



4. アートプロジェクト

(2) 共存・共生への祈り

作品説明：人々や他の生物との共生・共存をテーマにした、日本の音楽家、SeireN とロシアのメディアアーティスト Vlad Kononkov による映像のコラボレーション作品である。

作品に関するメッセージ：

1曲目 [オレンジが沈む頃に] by spla

3年前に急に空へ旅立った友達が「夕方の夕日ってなんか寂しいよね」と言った私に「また明日ねの色だよ。だから寂しくないんだよ」と生前私にくれた言葉を思い出しながら書いた曲です。人という儚い存在、そこから生まれる言葉。当たり前の日々が大切に尊い。そんなことを思いながら書いた曲です。

2曲目 [Still ～ それでも] by daich

イントロ冒頭の銃声をイメージした後にもあるように、差別や暴力に対する訴えや平和に対する願いを込めています。今回は海洋に関するテーマではありますが、海洋生物も含め、人の手によって失われるものへの悲しみも含みます。歌詞では深海を絶望に例えて、そこに光をさすには自分で考え続けなければならない、自分がどんな状況であってもそれでも進もうというメッセージとなっています。

映像作品 by Vlad Kononkov

今回の SeireN とのコラボレーションで、この世界における人間の位置づけや、人と他の生物との関係性について深く考えることの一助になっていただけたらと思っている。私たちは常に振り返り、私たちの存在について考えることによってのみ、私たちは古い過ちを避け、この地球上で共に生きる他のすべての存在を尊重することができる。たとえ距離や国境によって分断されていても、私たちは音楽、映像、感情を通してつながり、協力することができる。

SeireN

メロディを重視した感情的な楽曲に、レンジの広い力強くかつ繊細な歌声が加わることでより響く作品を目指した、vocal : spla とクリエイター : daich で結成したユニット。



spla
作詞・作曲・ボーカル



daich
作詞・作曲・編曲

Vlad Kononkov

ロシアのウラジオストク出身のメディアアーティスト。テクノロジー・アート、メディア・アート、サウンド・アートの分野で、グループおよび個人のプロジェクトに取り組んでいる。彼の作品における環境問題への関心や、海洋哺乳類の生態への探求は、ジェネレーティブグラフィックスやサウンド体験へと融合されている。



Vlad Kononkov
メディアアーティスト

4. アートプロジェクト

(3) 0=1 -Discontinuous Continuity

素材名：閃光電球、鏡、アルミニウム、鉄、電子部品など。

作品説明：99個の閃光電球が不規則なタイミングで一回きりの発光を繰り返す。これにより非連続の連続、「消滅」と「生成」を両義的に暗示する唯一無二の繰り返し、一回性の繰り返しを表現する。

作品制作：栗山 斉（九州大学大学院芸術工学研究院未来共生デザイン部門 准教授）



<作品>

0=1 -Discontinuous Continuity

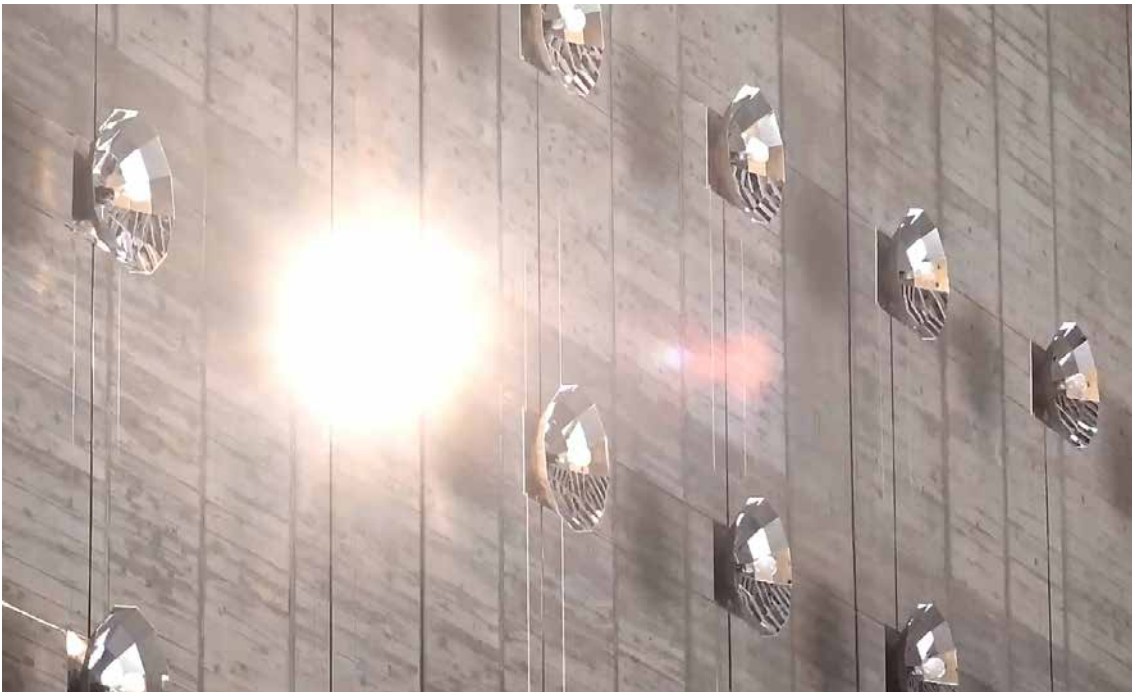


photo by Hikaru Hamada

4. 登壇者リスト

▼ 市民公開講座 創造する未来と科学の可能性 ―さまざまな科学のつなぎ方を創造しよう―

全体コーディネーター	岸村 顕広	九州大学 総長補佐・大学院工学研究院 准教授
	矢原 徹一	福岡市科学館館長、福岡オープンユニバーシティ理事
講師	坂東 麻衣	九州大学工学研究院 准教授
	小林 良彦	大分大学 教育学部 講師
	津田 みどり	九州大学大学院 農学研究院 准教授
	朝廣 和夫	九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授
	柴田 智広	九州工業大学大学院 生命体工学研究科 教授
	吉田 香	九州工業大学大学院 生命体工学研究科 准教授
	比良松 道一	九州大学 持続可能な社会のための決断科学センター 准教授
	高田 美子	九州大学大学院 生物資源環境科学府 大学院生
	銭 琨	九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 准教授
	白新田 佳代子	福岡女子大学 国際文理学部 国際教養学科 講師
	平井 康之	九州大学大学院 芸術工学研究院 教授

▼ 科学的助言ワークショップ -政策策定における科学的助言-

動画出演	Rémi Quirion	President, INGSA
メンター	Yuval Vurgan	Professor, The Knesset Research and Information Center
	有本 建男	政策研究大学院大学 客員教授
	狩野 光伸	岡山大学 副理事・教授
	Binyam Sisay Mendisu	Vice President, INGSA
	Markus J. Prutsch	PD.Doctor. European Parliament
	黒田 玲子	INGSA-Asia 理事、中部大学先端研究センター 特任教授
モデレーター	新福 洋子	広島大学 副学長・教授
	Alma Cristal HM	Visiting professor, Center for Research and Advanced Studies of the National Polytechnic Institute (CINVESTAV)
	まとめ 河野 俊行	九州大学 理事・副学長

▼ パネルディスカッション -シチズンサイエンスを促進する社会システムの構築を目指して-

スピーカー	岸村 顕広	九州大学 総長補佐・大学院工学研究院 准教授
	Lisette Lorenz	PhD candidate, Cornell University
	大上 麻海	福岡大学商学部 講師 (シチズンサイエンス研究センター メンバー)
	中村 征樹	大阪大学大学院文学研究科 教授
	兼竹 亮治	日本医療政策機構 理事/事務局長・CEO

▼ プレナリーセッション 1 -社会の中の大学：持続的で包括性のある社会を実現するための公共プラットフォームとしてのあり方-

スピーカー	山極 壽一	総合地球環境学研究所 所長
	平田 オリガ	芸術文化観光専門職大学 学長 [ビデオメッセージ]
	坂井 猛	九州大学人間環境学府キャンパス計画室 教授・副室長
	Connie Nshemereirwe	Past Co-Chair, Global Young Academy
	Michael Saliba	Professor, University of Stuttgart, Germany / Co-chair, Global Young Academy
モデレーター	Anindita Bhadra	Associate Professor, Department of Biological Sciences, Indian Institute of Science Education and Research Kolkata, India

▼ ワークショップ -自らの感性を引き出し、クリエイティビティを体感する-

モデレーター	宮本 道人	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 客員連携研究員、筑波大学システム情報系研究員
	新福 洋子	広島大学 副学長・教授

▼ プレナリーセッション 2 -科学者の社会への貢献に向け、感性と理性の調和を再考する-

スピーカー	Dennis Sherwood, ,	The Silver Bullet Machine Manufacturing Company Limited
	Sandra Lopez Verges	Senior Researcher, Department of Research in Virology and Biotechnology, Gorgas Memorial Institute for Health Studies
	Cristina Blanco Sío-López	Marie Skłodowska-Curie Senior Global Fellow, Ca' Foscari University of Venice
	狩野 光伸	岡山大学 副理事・教授
	Rob Jenkins	Professor, Department of Psychology, University of York
モデレーター	新福 洋子	広島大学 副学長・教授

▼ 閉会式

Speakers	小谷 元子	国際学術会議 (ISC) 次期会長
	新福 洋子	広島大学 副学長・教授
	岸村 顕広	九州大学 総長補佐・大学院工学研究院 准教授

5. 制作物

1. ホームページ

公開：2021年9月1日～（随時更新）

URL：<http://gya2022.com/>

項目：HOME、開催概要・ご挨拶、Program、Registration、参加者へのご案内、市民公開講座、アート作品、協賛・後援・広告・寄付金情報、リンク

<トップページ>



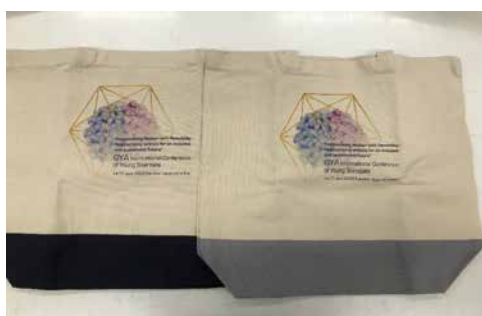
2. ポスター

アジサイをモチーフにしたロゴを制作し、ポスターを制作しホームページに掲載



3. 記念品

エコバッグを制作し登壇者へ記念品として進呈



4. 立看板

会場前に立看板を制作・設置

